

岸和田市都市計画審議会における主なご意見

資料 2-2

項目	頁数	ご意見	対応・考え方
広域連携の強化に関する方策	P6	・広域連携について、広域連携自体は非常に大事な話で、交通網の広域連携は良いと思うが、例えば都市施設の市町村連携となると今は火葬場とごみ焼却場しかなく、あまり広域連携を書きすぎると、本当にやっていけるのか疑問がある。	令和3年2月から忠岡町と消防指令業務の共同運用を実施するなどの行政間連携に取り組んでいます。今後も、災害時や、管理・運営面を含めた行政間連携を必要に応じて検討していく考え方を記載しています。
社会状況の変化に対応する展開イメージ	P8-11	・SDGsの理念は全部が繋がっていることなので、17ゴールを記載できないか検討されたい。 ・SDGsの項目を一番にし、残り5つの項目を包含するような記載とすれば分かりやすいのではないか。	・社会状況の変化の6項目は、総合計画の記載順序にあわせて記載し、それに対する都市計画を中心とした分野に関連が深いSDGsを記載しています。 ・SDGsの理念として、17の目標全体がわかるよう、用語解説を記載します（P10-11）。
社会状況の変化に対応する展開イメージ ・地球環境問題	P8	・自動車の利用を抑制するような施策も同時にやっていくことが重要。 ・移動するときに、1人だけで大きなスペースを取りながら移動するというのは、空間効率的に良いものでなく、できるだけ少ないスペースで多くの人を運ぶというのが欧米でも主流になっている。	・これからのまちづくりにおいて意識しておく必要がある観点であることから、「交通施策と連携したまちづくり（P24）」において、「過度な自動車利用から公共交通等への転換を目指す」視点を追加します。
		・社会状況の変化に対応する展開イメージ・革新的技術【新たなニーズへの対応】に記載されている「自然・歴史・文化資源等を活用した魅力ある空間形成」は、既存の歴史・文化を守るということも含め、脱炭素の意味もあると考える。しかし、この項目を読んでいると、既存の財産をきちんと次世代に繋ぐということが抜けているように感じる。	・都市計画マスタープランにおいて、住宅政策についてあまり触れておりませんでした。土地利用と関連が深いことから、「快適で環境負荷の低減に配慮した市街地の整備・更新（P24）」において、住宅ストックの活用と長期優良住宅の普及の視点を追加します。 ・地球環境問題への対応としてポイントとなる事項であることから、併せて、社会状況の変化に対応する展開イメージの表（P8）に追加します。
		・フロー型からストック活用型の時代が変わってきている。 ・道路等の公共施設についても、今あるものをいかに活用し、長持ちさせるかということで、長寿命化計画等が作成されている。そういうことも含めて脱炭素化につながる。	・インフラ施設の長寿命化を推進することを、テーマ別まちづくり方針（P25,35）に記載しています。 ・地球環境問題への対応としてポイントとなる事項であることから、社会状況の変化に対応する展開イメージの表（P8）に「インフラ施設の長寿命化」を追加します。

項目	頁数	ご意見	対応・考え方
社会状況の変化に対応する展開イメージ ・革新的技術	P9	・岸和田市としてどうしたいのか、アクションのある都市計画になっていないと感じる。 ・大阪市への通勤も可能であり、また通勤しないでテレワークもできるので、そこを売り出していくと良いものができるのではないか。 ・「革新的技術」の項目に記載されていることを、もっと突っ込んで考えていけば面白い都市計画になるのではないか。	・第5次総合計画において、今後の人口減少に歯止めをかけるためには、子育て世代を中心とした人々に対する働きかけが重要である旨が記載される予定です。 ・岸和田市からの転出・転入理由を見ると、都市計画分野では通勤・通学のしやすさが、住宅政策分野では住宅条件（価格・家賃・広さなど）が挙げられています。 ・都市計画マスタープランにおいて、住宅政策についてあまり触れておりませんが、土地利用と関連が深いことから、多様なライフスタイルを選択できる居住環境の整備の視点を追加します（P36）。 ・子育て世代等への働きかけとしてポイントとなる事項であることから、併せて、社会状況の変化に対応する展開イメージの表（P9）に追加します。
全般（社会生活の変化）	P37	・拠点に集まるという考え方から集まらないという考え方、移動しないで生活をするという動き方へ変化してきているため、都市計画的にも考えていく時期ではないか。	・「地域で集うまちづくり（P37）」に、対面に加えてオンラインによる集いや学びが含まれることを表現するために、「ICT技術の活用」を追記します。
災害に対して強さとしなやかさを備えたまちづくり	P38-44	・災害のリスクは地域によって特性があり、都市全体が同じリスクではない。 ・いろいろなメニューが書かれているが、それをどう空間に落とし込んでいくかが重要であり、ある程度地域を特定していかないとあまり効果的とはならない。	・各災害リスクのエリアがわかるよう、「現状と課題」にハザードマップを追記します（P40）。
		・エリアごとに災害リスクが異なることから、避難所など施設整備を行う時に、市内の中でお互い補い合うようなネットワークも想定していければ、面白い計画づくりができるのではないか。	・今後、個別計画や具体施策検討の際の参考にさせていただきます。
交通施設の配置の方針	P50-51	・広域の都市計画道路の整備率のみならず、サイクリングロードやウォークアブルなまちづくりについても着目する方が良いのではないかと考える。	・都市計画道路の現状として、整備率を記載しています。 ・自転車通行空間の整備計画は、都市計画マスタープランや交通まちづくりアクションプラン（自転車活用推進計画編）を受けて、今後、検討予定です。 ・今後、都市計画道路の見直しを行う際には、都市計画マスタープラン、交通まちづくりアクションプラン（公共交通編・交通戦略編・バリアフリー基本構想編）等を踏まえつつ、都市計画道路見直しの基準を作成し、進めていく考えです。

項目	頁数	ご意見	対応・考え方
公園の配置の方針	P52-53	・ネットワーク的な発想がどうしても欠けてしまう。 ・どれくらいの公園面積を確保していくのか、実際に何をしていくのか、その辺りまできっちりと数値があった上で図があるのであれば実現可能性が窺えるが、この辺りの図を都市計画マスタープランとして入れるのは少し気になる。 ・都市公園だけで話をしているののかも含め、もう少し検討の余地があるのではないかと感じる。	・都市計画公園の現状として、整備率を記載しています。 ・方針では、都市計画公園の見直しの考え方として、みどりの基本計画と整合を図りつつ、地域制緑地も踏まえて検討を行うことを記載しています。 ・今後、都市計画公園の見直しを行う際には、都市計画マスタープラン、みどりの基本計画等を踏まえつつ、都市計画公園見直しの基準を作成し、進めていく考えです。
		・「環境にやさしい、みどり豊かなまちづくり」の方針図にはみどりのネットワークの記載があるが、公園の配置の方針では拠点整備の話が書かれおり、ここをうまく連動させるという指摘かと考える。	
		・耐火性のある植物を隣地側に植えておくと、樹木自体は燃えてしまったが隣地への延焼は抑制したということも実証されている。 ・緑化と防火を合わせて、何か考えていくことはできないだろうか、と感じた。	・敷地内緑化を促進するためにも、みどりが持つ多様な機能を発信・共有することが重要であると考えます。「水とみどりのネットワークの形成（P27）」、「火災・震災に強いまちづくり（P42）」に、「延焼防止機能」の視点を追加します。
全般	—	・「低炭素」と表現されているが、今は「脱炭素」に変わっているため変更された。	・「脱炭素」に変更します。
KPIの設置	—	・KPIを設定し、数値で測ってほしい。 ・近々、内閣府のSDGsプラットフォームから、自治体のローカル指標が公開されてくるので、参考としてみてはどうか。	・指標については、総合計画で一体的に設定を行うこととし、都市計画マスタープランでは指標の設定を行わない考えです。